



## 新年の挨拶

山梨県言語聴覚士会 副会長 赤池 洋

令和4年の新春にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年は当士会の活動にご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う環境下にて、感染対策を講じながら日々の業務に取り組まれてこられた会員の皆様に心より敬意を表します。当士会でも学術活動などの事業は集合開催が難しく、大半はオンラインでの開催となっています。しかし、オンラインを始めた当初よりは事業への参加率が増え、会員同士で情報共有できる環境が整ってきた年だったと思います。私自身も他県士会の研修会や他職種の学会、研修会にも参加するなど、幅広く知識を得るきっかけとなり、また私生活でも家族と過ごす時間が増え、オンラインを通して公私ともに充実した時間を過ごすことができているように思います。

さて、当士会では令和2年度より行われています失語症者向け意思疎通支援事業につきましても、感染対策を徹底した中で今年度も開催されました（詳細2・3ページ参照）。この事業にご尽力を賜りました運営委員の皆様、本当にお疲れ様でした。

さらにこの事業に携わるための人材育成として昨年10月には失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修が東京都で開催され、当士会より9名の会員がオンラインで参加されました。今後もこの事業を継続しうまく展開していくことが、失語症のある方々の社会生活における活動と参加の範囲を拡大することに繋がっていくことだと思いますので、会員の皆様のご協力の程、宜しくお願い致します。

また、山梨県リハビリテーション専門職団体協議会でも理事会や各委員会の事業はオンラインで開催されています。その中でも令和3年7月4日（日）の第3回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会では小林伸一大会長（山梨県理学療法士会会長）のもと、初めてのオンライン形式での開催となりました。オンライン開催という新しい試みの中でしたが盛大に開催することができ、事前準備から企画、運営にご尽力を賜りました運営委員、実行委員、査読委員の皆様に感謝申し上げます。

そして、令和4年度は診療報酬の改定が行われます。昨今、言語聴覚療法をめぐる社会情勢が大きく変化し、言語聴覚士の活動は介護保険分野や福祉、保健・予防、教育の分野でより一層求められるようになっていく中で私たちが働く上での基盤となる施策ですので、日々の業務が円滑に務めていけるよう会員同士で情報共有していきましょう。

最後となりますが、感染対策に特化した生活に一変した今日、私は健康管理に気を配ることを重視し、毎年必ず人間ドッグを受けるようにしており、日々の業務では毎日1万5千歩を歩き、休日は3kmのランニングをするように心掛けています。やはり心身共に健康であることが患者様に対して言語聴覚士としての専門性をより一層発揮できる要因だと、コロナ禍において感じるようになりました。今後も新型コロナウイルスの状況が不透明ではありますが、会員皆様もお身体を大切にいただき、また直接お会いできる日が来ることを強く願っています。

本年も当士会の活動にご理解をいただき、ご協力をお願い申し上げます。



# 令和3年度山梨県失語症者向け意思疎通支援者 9名が修了しました



山梨県失語症者向け意思疎通支援事業運営委員会  
委員長 赤池 三紀子

「令和3年度失語症者向け意思疎通支援者養成講習会」は途中 COVID-19 の拡大により研修会延期も余儀なくされましたが、去る12月11日かんぽの宿石和にて支援者9名が無事修了式を迎えました。今回の修了者9名を加えた計23名の支援者が県に登録され、令和4年度から意思疎通支援者として派遣される準備が整いました。

**失語症者支援で修了式**  
県言語聴覚士会

失語症当事者の意思疎通をサポートする支援者養成講習会の修了式が、笛吹市のかんぽの宿石和で行われた＝写真。

講習会は県言語聴覚士会（内山量史会長）が県から委託を受け、昨年度に続き実施。6月から計9回行い、受講者は実習や講義を通してコミュニケーションや外出支援の方法などを学んだ。

11日の式では内山会長が9人に修了証書を授与し、「よりよい支援につなげるため、学び続けてほしい」とあいさつ。修了証書を受け取った市川三郷町の石黒博

子さん(51)は「症状には個人差があり、一人一人に合った対応が求められる。当事者が伝えようとしている内容を正確に理解できるように研さんを重ねたい」と話した。

山梨日々新聞（令和3年12月27日）より



山梨県福祉保健部障害福祉課 地場崇課長補佐 田代鈴乃主事  
山田七穂県会議員



支援者代表挨拶



山梨県言語聴覚士会  
失語症者向け意思疎通支援事業運営委員



令和3年度第9回山梨県失語症者向け意思疎通支援者養成講習会外出同行支援実習②  
 「電車利用と昼食注文支援：甲府駅～石和温泉駅」12月11日（土）9：00～16：00



修了式の前には、最後の外出同行支援が実施され、支援者10名と当事者6名はST12名とともに甲府駅から石和温泉駅まで電車を利用しました。今年の2期生は遅刻者が必ずいる研修会となり、この最終日も半数が県立図書館の集合に遅刻し、当事者が先に集合したという意識の低さでした。それでも当事者から「とても有意義な体験だった」「発症してからはじめて電車に乗って楽しかった」という声をいただき支援者は嬉しそうでした。一方では、実際の派遣の際には実習のように言語聴覚士による援助がないことに非常に不安そうでした。今後の支援に向けた意識づけとなった一日と受け取りこれからの期待したいと思います。皆さま、大変、お疲れ様でした。



## 言語聴覚士における現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフトについて

山梨県言語聴覚士会 会長 内山 量史

2021年9月30日付けで厚生労働省医政局から各都道府県知事に「言語聴覚士における現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフトについて」通知が発出されました。

これは医師の働き方改革（医師の時間外労働の上限の適応）に関連する施策として2019年から検討されてきました。「タスク・シフト」とは「医師免許を保有していなくとも実施可能な業務」を他職種に移管することを意味します。この「タスク・シフト」については多くの医療関係団体からのヒアリングの結果、286の業務・行為が抽出され、それぞれの業務・行為に現行制度の下で（1）実施可能である業務（2）実施可能か否かが明確に示されていない業務（3）実施できないが、実務的には十分実施可能で法改正等を行えば実施可能となる業務に区分けされ、タスク・シフティングの可能性や課題点について約2年間検討が行われました。

言語聴覚士については言語聴覚士法の改正は必要とせず、現行制度下において以下の4項目が「タスク・シフト」されました。

### ① リハビリテーションに関する各種書類の記載・説明・書類交付

リハビリテーションに関する各種書類については、作成責任は医師が負うこととされているものについても、医師が最終的に確認又は署名（電子署名を含む）することを条件に、言語聴覚士が書類を記載することや、当該書類について患者等への説明や交付を行うことは可能である。

### ② 侵襲性を伴わない嚥下検査

侵襲性を伴わない嚥下検査については、言語聴覚士も実施可能であり、医師との適切な連携の下で、言語聴覚士が、医療機関内であらかじめ定めたプロトコルに基づき、患者の症状に合わせた適切な嚥下検査を選択・実施し、その結果について、客観的な所見を医師に報告することは可能である。検査結果や当該所見に基づく診断については、医師が行う必要がある。

### ③ 嚥下訓練・摂食機能療法における患者の嚥下状態等に応じた食物形態等の選択

嚥下訓練・摂食機能療法においては、患者の摂食嚥下機能の改善・悪化に伴い、適時に食物形態を変える必要があるが、医師や関係職種との適切な連携の下で、言語聴覚士が、医療機関内であらかじめ定めたプロトコルに基づき、摂食嚥下機能の改善・悪化等の患者の状態にあわせて、訓練場面における食物形態を適宜選択することは可能である。言語聴覚士は、食物形態を変更した場合は、その結果について医師に報告する必要がある。

### ④ 高次脳機能障害、失語症、言語発達障害、発達障害等の評価に必要な臨床心理・神経心理学検査種目の実施等

高次脳機能障害（認知症含む）、失語症、言語発達障害、発達障害等の評価に必要な臨床心理・神経心理学検査の種目の選択・実施について、医師との適切な連携の下で、言語聴覚士が、患者の症状を踏まえて、適切な検査を主体的に選択・実施し、その結果について、客観的な所見を医師に報告することは可能である。検査結果や当該所見に基づく診断については、医師が行う必要がある。

タスク・シフトの導入には医療安全・医療の質の確保が優先され、何より勤務施設での医師との良好な連携に基づく、定められたプロトコルに準じた実施が重要となります。

言語聴覚士であっても、経験・スキル・意識には大きな差があり、自己研鑽に頼るだけでなく、組織化された技術指導が必要となります。言語聴覚士の業務が増大しリスク管理も重要となります。

「リハビリテーションに関する各種書類の記載・説明・書類交付」については令和2年度診療報酬改定における疑義解釈その1（令和2年3月31日発出）において「リハビリテーション実施計画書の説明に関しては医師による説明が必要である」と明記されており、診療報酬を管轄する厚生労働省保険局医療課とタスク・シフトを管轄する医政局医事課との意見の一致化が図れていない現状もあり、各種書類の説明・書類交付については慎重な判断が必要となります。

言語聴覚士がタスク・シフトとして移譲された行為や今後、移譲される行為を想定した手技や結果の解釈、リスクマネジメントなどを学ぶ場の確保も重要となります。会員の皆様には当会の学術活動への積極的な参加をお願いいたします。



# 「高校生の一日リハビリテーション体験」報告 目指せ言語聴覚士！それとも？

リハビリテーション医療に関心のある高校生 95 名が参加

令和3年11月27日（土）午前10時からZoomを用いたWebにて、「高校生の一日リハビリテーション体験」が開催され、山梨県内の高等学校在学中の学生95名が参加しました。



開催方法や運営について何度も議論し、高校生たちの熱意に応える準備をしてきました。

〈上：開催メンバー 右上下：説明スライド抜粋〉



本事業は介護予防やリハビリテーションの重要性を広く県民に周知し、県内で働くリハビリテーション専門職を確保することと地域リハビリテーションを推進することを目的に、平成4年度より行われ、これまでに4696名の高校生が参加しています。令和3年度より山梨県リハビリテーション専門職団体協議会に事業委託され、一般社団法人山梨県理学療法士会、一般社団法人山梨県作業療法士会、一般社団法人山梨県言語聴覚士会が事業協力を行っています。

例年であれば、医療現場での体験学習を開催しており、高校生たちは実際の医療現場で患者さんやリハビリテーション専門職と触れ合い、自分の将来像を思い描く機会になっていました。しかし残念ながら感染症予防の観点から今年度はWeb開催となり、①各士会からの専門職についての説明、②フレッシュマン体験発表（甲府城南病院 作業療法士 宮澤真美先生）、③質疑応答という内容でした。質疑応答では、進学の見学や職業選択のきっかけなどへの質問があり、高校生たちの真剣な様子が伝わってきました。参加者アンケートでは、やはり現場体験が出来なかったことを残念がる意見は多くありました。しかし、Web開催でもリハビリ専門職のやりがいや訓練の意義を知ることが出来たなどの好意的な意見も沢山いただきました。

県内に養成校が無く、県民における社会的認知度が高いとは言えない言語聴覚士にとって、高校生たちに仕事の魅力を伝える貴重な機会となりました。

文責：石和温泉病院 高橋 正和

# 研修会レポート

## やまなし地域リハケアの推進を考える会研修会

令和3年12月9日に“やまなし地域リハケアの推進を考える会”主催「マネジメントの個別性と標準化について～科学的介護に対する理解を踏まえて～」というテーマで研修会が開催されました。山梨県介護支援専門員協会会長の鷲見よしみ先生から「科学的介護情報システム（LIFE）」についての講義がされた後に、那須美幹先生（山梨県介護支援専門員協会）、原啓太先生（山梨県理学療法士会）、長坂真由美先生（山梨県作業療法士会）と共に、当会から舟越あゆみ理事が登壇され、LIFEについてそれぞれの立場から意見交換を行いました。

### LIFE に対する多職種の違いを交えてみて

舟越 あゆみ



この研修会において、LIFE について現状と課題、活用について意見提案をさせていただく機会を頂戴致しました。LIFE は既に運用されている VIST と CHASE を統合したもので、データを提出してフィードバックを活用し、PDCA サイクルを推し進めることで、ケアの質の向上を図ることを目的としています。ADL (BI) や栄養状態 (BMI)、口腔・嚥下、認知症の状態等のデータを提出しますが、コミュニケーションの状態や高次脳機能面等はデータ提出には無く、かつ数値化が難しい現状があり、介護の現場

で働く ST が多職種に向け、積極的に情報提供していく必要があると感じています。また、「その人らしさ」といった個別性への支援では、数値で表せない個々の人生背景もあり、私達、支援者は丁寧に聞き取り、寄り添っていくことを忘れてはならないと感じました。今回、このような機会を頂きまして、感謝申し上げます。

## 令和3年度学術局生涯研修部研修会

### 第1回学術研修会

令和3年8月6日に北海道大学保健科学研究所の大槻美佳先生をお招きして、「脳画像のみかた」、「失語症の機能局在と最新の知見について」をテーマにご講演いただきました。“脳画像をよむ”ということには、苦手意識を持つセラピストも多いと思われるが、脳の各部位を特定する上でのポイントを実際の画像を提示しながらわかりやすく教えていただきました。今後、脳画像をみる際には、障害部位の特定だけでなく、そこから起こりうる症状や予後予測など、様々な面へ視点が広がったことと思われます。また、言語システムの局在部位や症候群との関連性について、より深く学ぶことができました。失語症のそれぞれの症状がどの言語システムの障害によるものかを考えることで、リハビリテーションの方向性が明確になるという視点は、今後訓練内容を考える際の参考になるのではないかと思います。

### 第2回学術研修会

令和3年11月26日に藤田医科大学保健衛生学部リハビリテーション学科の稲本陽子先生をお招きして、「嚥下動態の理解を深める 嚥下CTの視点から」をテーマに講演して頂きました。今回、馴染みのあるVE・VFではなく、嚥下運動を3次元で観察できる嚥下CTの基本的な使用方法、実際の評価や嚥下動態を学ぶことが出来ました。嚥下CTの活用により、諸器官の動きを制限なく観察でき、定量的な評価が可能となることで、嚥下動態の理解をより深めることができる評価法であることを実感しました。日々の臨床では触れる事の無い評価法を新たに知ることは、とても刺激的であり、今回はオンラインでのご講演でしたが、コロナ禍が収束した後には実際の様子も見学してみたいと思いました。今回の講演を機に、嚥下CTの更なる普及に期待し、今後も注目していきたいと思います。



## 山梨県災害リハビリテーション支援関連団体協議会 令和3年度研修会

令和3年12月1日に熊本託麻台リハビリテーション病院の理事長兼院長である平田好文先生をお招きして、「災害時リハビリテーション～医療体制の継続（BCP）と災害支援の両立を考える～」というテーマでご講演いただきました。講演では、2016年に発生した熊本地震についての当時の状況や平田先生が実際にどのような支援をされたのかを聴くことができました。当時、熊本託麻台リハビリテーション病院も被災され、避難所としての機能を果たしながら、理事長というお立場から、そこで働く職員の生活も考え、いち早く病院としての機能も復旧しようと努めたとのことでした。また、被災した患者に対して被災していない地域の看護学生が聞き取りを行う傾聴ボランティアという取り組みも紹介されました。後半はCOVID-19に対して、地域で根付いたネットワークと熊本地震の経験を基に、地域住民に向けて感染症の講座をするなど、様々な取り組みをされているとの事でした。平時からの取り組みが災害時に様々な場面で活かされており、とても参考になりました。また、COVID-19に疲弊しかけていた我々に対してたくさんのエールを頂いたように思います。

## 山梨県リハビリテーション病院協会 令和3年度研修会

令和3年11月26日に大阪府立大学地域保健学域総合リハビリテーション学類作業療法学専攻の竹林崇先生から「上肢機能に対する作業療法」が講演されました。講演では、「リハビリテーションとはなにか」「幸せを示すアウトカム」「身体活動量と幸福」など、リハ職であればどの職種も考えなくてはならない根本的な話から始まりました。そして、上肢に対するCI療法について、急性期、回復期、生活期などの時期別にCI療法の提供時間が異なることなどがエビデンスを提示しながら話されました。CI療法の進め方として、セラピストが実践することは勿論ですが、「家族をコーチとして自主練習時間を確保」「ReoGo-Jなどのロボット療法の活用」など、扱うフィールドが幅広い作業療法士ならではの工夫が竹林先生の研究を基に話されました。

今回の講演は、“上肢”というテーマではあったものの、リハビリにおける患者の望みや主体性を考える内容であったり、業務過多になりつつあるリハ職の現状を考えて、家族が行うリハやロボット療法などにも話題が展開されており、様々なフィールドを扱う言語聴覚士にも通ずるものがあったように思います。

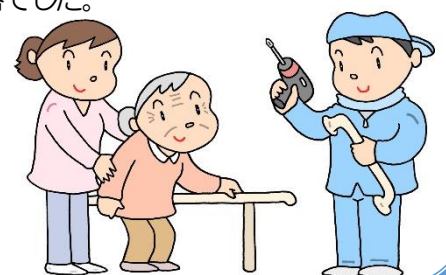
## 生活期リハビリテーション研修会

### 「第1回 在宅における感染症対策について」

令和3年11月25日（木）今回生活期リハビリテーション研修会にて在宅における感染症対策について在宅看護専門の並木奈緒美看護師からお話を伺う機会をいただきました。感染症に対する基礎知識からコロナ禍での訪問看護の実態を知る事ができ、感染予防策の重要性を感じる時間となりました。また、予想外のグループディスカッションでは他の病院や施設での感染症対策の実態や工夫を共有することができ、有益でしたが参加者がSTに片寄っていたので他職種の話も伺いたかったです。コロナ禍になり早2年が経ちましたが、未だ予断を許さない日々が続いており、今回の講義を受け自身・患者様の身を守るためにも感染症対策を継続的に行っていきたいです。

### 「第2回 コロナ禍における住環境整備」

令和3年12月7日（火）に生活期リハビリテーション研修会がオンラインで開催され、斬新社の久保田好正先生より、ご講演をいただきました。STが住宅改修に関わる機会は少ないため、今回の研修会は貴重な経験となりました。特に、オンラインでの退院前訪問については、事前の準備や当日の動きを、動画を交えながら紹介していただき、具体的なイメージを膨らませることもできました。今回の研修会ではコロナ禍における多職種連携の重要性を改めて学ぶことができ、今後の臨床にも活かしていける内容でした。



## 令和3年度秋期都道府県士会会長会議報告

山梨県言語聴覚士会 副会長 赤池 洋

令和3年11月6日(土)、オンラインにて秋期都道府県士会会長会議が開催されました。会議では深浦会長からの挨拶や事業報告、各部からの事業報告、そして全体のディスカッションや日本言語聴覚学会の報告がありました。報告内容は以下の通りとなります。

1. 言語聴覚士学校養成所指定規則ならびに言語聴覚士養成所指導ガイドラインの改正、タスク・シフト/シェア、20周年記念誌への協力について報告があった(副会長)。
2. 都道府県士会会員と協会会員との一致化について、協会ホームページの会員マイページに所属士会の入力欄が設置されたため会員への入力のお願いがあった。また、協会事業に関するアンケートについて報告があった(総務部)。
3. 言語聴覚士に係るリスクに関するアンケート結果の報告があった(安全対策部)。
4. 「言語聴覚の日」イベント開催報告、動画サイト投稿のお願いがあった(広報部)。
5. 令和4年度診療報酬改定におけるSTの職名追記を中心に7つの要望内容について説明があった(医療保険部)。
6. 令和3年度介護報酬改定の影響調査への協力依頼、地域リハビリテーション活動支援に資する人材育成事業の報告(地域包括ケア推進コース 累計1,041名、介護予防推進コース 累計936名の修了者)、訪問リハの普及に関する活動について報告・説明があった(介護保険部)。
7. 小児言語聴覚療法の実態調査について報告があった(障害福祉部)。
8. 令和3年度学校教育連携担当者連絡協議会開催、令和3年度学校教育に関するアンケートと会員向けアンケート周知の御礼について報告があった(学校教育部)。
9. 2022年全国研修会(オンライン開催で定員490名 受講費1講座2000円)について報告があった(生涯学習部)。
10. 全体のディスカッションでは①都道府県士会会員と協会会員の一致化に向けて②乳幼児健診事業について、活発な意見交換がされた。
11. 第22回日本言語聴覚学会(愛知県)では、初めてのオンライン開催だったが2967名(25%が初参加)が参加されたと報告があった。第23回日本言語聴覚学会は令和4年6月24日(金)・25日(土)に新潟県で開催されることが報告された。

都道府県士会会長会議の詳細な内容につきましては協会ホームページや情報誌 STANDUP をご覧下さい。COVID-19の終息についての見通しは不透明ですが、今後も協会と結束しながら事業展開をまいります。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



# ちょっといい話 vol.15

甲府城南病院 桂川 謙祐

山梨県立図書館に行ってみたことはありますか。山梨県立図書館は、2012年11月11日に甲府駅北口に開館し、映画“図書館戦争”のロケ地としても使用されるなど、話題となりました。“図書館は、本と人を結びつける施設であると同時に、知識を通して人と人を結びつけ、交流を促す施設”と、ホームページで紹介されているように、本によって人と人とが結ばれ、そこから新たなコミュニケーションが生まれることがあるのかもしれませんが。

当士会は、2014年に発行された県土会 News28号から年に3回、山梨県立図書館へ広報誌を献本しています。また、同年より、言語聴覚士という職業や言語聴覚士が扱う「失語症」「摂食嚥下障害」「高次脳機能障害」などについて、より多くの県民の方々に知って欲しいという思いから、年1回一般の方々にもわかりやすく説明してある上記の様な本を献本するようになりました(写真:右上段内山会長、左上段高橋広報部長、今年度の図書館への寄贈風景)。そこには、実際に病気になったり、家族として介護する立場になった際に、県の図書館に行って、それらの本が存在しないことが無いようにという思いもあったようです。

実際に図書館へ行ってみると、ガラス張りとても広い空間の中で、我々言語聴覚士(以下ST)関連の本や広報誌を探すのは、一苦労でした。そこで検索機で「シツゴショウ」と検索すると、43件の本が表示されました。同じく「コウジノウキノウショウガイ」を検索すると37件と、私が思っていたよりも、多くの本が蔵書されていることが分かりました。意外だったのは「エンゲショウガイ(ヒットしやすいように“セッショク”は除いてみた)」を検索すると9件と少なく、テレビや週刊誌でよく取り上げられるようになった、“誤嚥”に紐づくキーワードは、まだ一般の方々には浸透していないのかもしれないと思いました。

私がST関連の本を探し終えて、一緒に図書館に来た子どもたちのもとへ行くと、子供の絵本などがならぶ、いわゆる“キッズコーナー”に精神医学者の“村井俊哉”先生の「はじめての精神医学」という本が置いてあるのが目につきました。村井先生は、近年、ST学会でも教育講演で講演されるなど、高名な先生であるのですが。私たちの広報活動も、子どもたちの目にとまり、未来の言語聴覚療法へと繋がってくれることを信じてながら、子どもたちと一緒に家路につきました。



## 第5回 理事会議事録

日 時：令和3年8月19日（木） 19時06分～20時25分  
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、石垣、桂川、佐々木、高橋、中嶋、舟越、山田、吉澤、河西  
欠席理事：池神、市川、元木  
〈協議事項〉

1. 各種研修会の日程が以下の通り承認された。  
第3回症例検討会：令和3年10月21日  
第1回小児領域勉強会：令和3年10月27日  
第3回基礎講座：令和3年11月5日
2. 新卒者研修会の内容・講師について、9月：構音障害、10月：高次脳機能障害（元木理事）、11月：摂食嚥下障害（佐々木理事）、12月：対人コミュニケーション（中村監事）、1月：失語症（桂川理事）、2月：SLTAに決定した。「STのコミュニケーションに欠かせないもの」（赤池三副会長）については、集合開催が可能であれば3月に実施することとなった。
3. 実態調査結果について、パナー名を「言語聴覚士のいる病院・施設」とし、ホームページに掲載することが決定した。
4. 県土会ニュース50号の「50号記念号発行に寄せて」の外部執筆者が決定した。

### 〈報告事項〉

1. 県立図書館への図書寄贈が報告された。
2. 第3回・第4回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会の開催、山梨県障害福祉課との意見交換、失語症者向け意思疎通支援者派遣事業の実施に向けた状況調査実施について報告された。
3. 厚生労働大臣表彰について、当会から赤池三紀子副会長を推薦することが決定した。
4. 自民党へ要望書を提出したことが報告された。

## 第6回 理事会議事録

日 時：令和3年9月16日（木） 19時00分～20時01分  
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、石垣、市川、桂川、佐々木、高橋、中嶋、舟越、元木、吉澤、河西  
欠席理事：山田  
〈協議事項〉

1. 災害時安否確認システム第2回予行演習を令和3年10月4日～11日に開催することとなった。

### 〈報告事項〉

1. 第2回症例検討会の開催が報告された。
2. 9月より新卒者研修の時間を18時45分～20時00分に変更することが報告された。
3. 医療・介護連携の見える関係づくり交流会第1回事前打ち合わせ、甲信越在宅医療推進フォーラム実行委員会、令和3年度第2回山梨県リハビリテーション専門職団体協議会理事会の開催が報告された。
4. ふじやまの会員に対し、今後の活動再開に関する質問の葉書を送付したことが報告された。

## 第7回 理事会議事録

日 時：令和3年10月22日（木） 19時00分～20時33分  
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、石垣、市川、佐々木、高橋、中嶋、舟越、元木、山田、吉澤、河西  
欠席理事：桂川  
〈協議事項〉

1. 第2回小児領域勉強会を令和3年12月8日、第4回基礎講座を令和4年1月27日に開催することが決定した。

### 〈報告事項〉

1. 第2回基礎講座、第3回症例検討会の開催が報告された。
2. 新卒者研修会「構音障害」「高次脳機能障害」の開催について報告された。
3. 甲信越在宅医療推進フォーラム、自由民主党山梨県支部連合会令和4年度施策及び予算編成に対する要望事項のヒアリング、やまなし地域リハケアの推進を考える会について報告された。
4. 第4回山梨県訪問リハビリテーション委員会の開催が報告された。
5. 令和3年度がん患者のリハビリテーションネットワーク協議会第1回ワーキンググループ、令和元年度のアンケート報告、今後の検討内容について報告された。
6. 日本言語聴覚士協会代議員選挙に赤池洋副会長が立候補することが承認された。

## 第8回 理事会議事録

日 時：令和3年11月24日（水） 19時00分～21時11分  
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、石垣、市川、桂川、佐々木、高橋、中嶋、舟越、元木、山田、吉澤、河西

### 〈協議事項〉

1. 日本言語聴覚士協会創立20周年記念ホームページ作成に関して、会員紹介を赤池絢ST、依田華STに依頼し、当会の紹介は高橋理事が担当することとなった。また、20周年記念フォトギャラリーの写真については、池神理事より失語症友の会「ふじやま」の写真を提出することになった。
2. 第3回学術講演会を令和4年2月18日に実施することが決定した。
3. 県土会ニュースについて、51号よりカラーで発行することが決定した。
4. 令和4年1月中旬に「難聴と補聴器についての理解を深める」（案）をテーマに認知症対策推進委員会主催の研修会を開催することが決定した。

### 〈報告事項〉

1. 第3回基礎講座、第1回小児領域勉強会、新卒者研修会「嚥下障害」の開催が報告された。
2. 一般社団法人山梨県理学療法士会 創立50周年記念事業記念式典、令和3年度秋期都道府県士会会長会議、日本言語聴覚士協会 学校教育連携担当者連絡会議について報告された。
3. 令和3年度「失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修」オンライン研修へ9名参加したことが報告された。

開催方法：オンライン会議

議長：内山量史

書記：坂井李菜、高橋里実、佐藤享貴

議事録作成：河西祐子



## ＜各局からのお知らせ＞

### 事務局

＜総務部＞

会員動向（令和3年12月末現在）

正会員数 134名 賛助会員 7団体

退会 齊藤俊太郎先生（恵信梨北リハビリテーション病院）

年度末に向けて異動の多い時期かと思えます。会員名簿記

載事項に変更のある方は速やかに「会員異動届」の提出を

お願い致します。届出用紙は県士会 HP からダウンロード

できます。

＜財務部＞

12 月末現在、ほぼ全員に会費を納入していただきました。

皆様のご協力に感謝申し上げます。

### 学術局

昨年は学術局主催の講演会や研修会にご協力いただきあり

がとうございました。本年もより充実した内容の講演会や

研修会を企画できるように努めてまいりますので、ご参加

の程よろしくお願い致します。

＜教育部＞

・第 7 回 新卒者研修会

日時：令和 4 年 1 月 26 日（水）18：45～20：00

会場：Zoom で開催

内容：SLTA

講師：元木雄一朗先生（甲州リハビリテーション病院）

大室 陽佳先生（甲州リハビリテーション病院）

松本 英之先生（甲府城南病院）

・第 8 回 新卒者研修会

日時：令和 4 年 2 月 予定 18：45～20：00

会場：Zoom で開催

内容：失語症について

講師：桂川 謙祐先生（甲府城南病院）

＜生涯研修部＞

○学術講演会

・第 3 回 学術講演会

日時：令和 4 年 2 月 18 日 18：30～20：15

会場：Zoom で開催

内容：「行動から理解する高次脳機能障害」

講師：森田 秋子先生（鶴飼リハビリテーション病院）

○基礎講座

・第 4 回基礎講座

日時：令和 4 年 1 月 27 日 18：30～19：45

会場：Zoom で開催

内容：「研究法序論」

講師：元木雄一朗先生（甲州リハビリテーション病院）

### 社会局

社会局は渉外部、広報部、会報編集部・ホームページ管理

部の 3 部体制で活動しています。

＜渉外部＞

・令和 3 年度秋期都道府県士会会長会議がオンラインで開

催され、当士会代表として赤池洋副会長、協会代表とし

て内山会長が参加されました。

・日本語聴覚士協会 学校教育連携担当者連絡会議がオン

ラインで開催され、内山会長、市川理事が参加されま

した。

・山梨県民間病院協会 PTOTST 部会研修会が令和 4 年

2 月 7 日に予定されています。

・令和 3 年 6 月に実施した「外来リハ、訪問リハ、訪問看

護、通所リハ、通所介護に関する実態調査」の結果を受

けて、県士会ホームページの左のパナーに「言語聴覚士

のいる病院・施設」を掲載してあります。ぜひご覧いた

だき、周りの関係者の方にもご活用いただけますようお

伝えください。

＜広報部＞

日本語聴覚士協会創立 20 周年記念ホームページに当士

会のロゴマークの誕生秘話について投稿いたしました。ST

協会ホームページにて公表予定ですので是非ご覧ください。

＜会報編集部・ホームページ管理部＞

20 年前より発行を続けてきました会報誌が前号で 50 号

の節目を迎え、50 号には「県士会 NEWS」の変遷や歴代

の執筆者からのお言葉を掲載致しました。また、前号より

全頁カラー発行することとなり、当会の活動をより鮮明に

皆様にお伝えできるようになりました。本号では、「医師の

タスクシフト」についても取り上げています。県士会ホーム

## 編集後記

新年を迎え、2022年がスタートしました。コロナ禍で行動が制限され暗いニュースが続きましたが、昨年開催された東京オリンピックでは、多くの日本の選手が活躍され、期間中は日本全体が明るい雰囲気染まっていたように思います。今月から冬季オリンピックが北京で開催される予定です。こちらでも日本や他国の選手の活躍を通し、明るいニュースであふれることを楽しみにしたいと思います。

今号より前号の50号記念誌に引き続き、カラー発行を継続します。より魅力的になった県士会ニュースをお楽しみください。

（春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 志摩 美月）

病院で使われている介護食を、**在宅** 通信販売  
ご家庭にお届けしています。

**噛むこと、飲み込むことが苦手な方に**

飲食時によくむせる方に 食の細い方に

「はつらつ食品」カタログにはこんな商品が掲載されています

- ・食べ物や飲み物に混ぜるだけで簡単にトロミをつけられるトロミ調整食品
- ・むせにくいゼリータイプの飲料
- ・食べやすく、飲み込みやすくなった食品
- ・飲んだりチューブを用いて摂取出来るバランス栄養食品

病棟別にたんぱく制限用、カロリー制限用、カタログもご用意しております

カタログのご請求・お問い合わせは

株式会社ヘルシーネットワーク TEL 0120-236-977  
〒191-0024 東京都日野市万願寺1-34-3 FAX 0120-478-433

受付時間 月～土 午前9:00～午後5:00 (日・祝日は休業日となります)

インターネット ヘルシーネットワーク 検索  
https://healthynetwork.co.jp

山梨リオン補聴器センターは  
『なかだて補聴器センター』に店名変更しました

- 認定補聴器技能者在籍
- 補聴器の無料体験
- 支援法補聴器取り扱い

写真：シグニア補聴器 スタイレット 充電式

認定補聴器専門店  
**なかだて補聴器センター**

甲府店 ☎0120-29-3321 玉穂店 ☎0800-800-8173  
甲府市中央5丁目2-29 中央市若宮29-3 T-ウエスト

ゼリー食の素(酵素入り)

**スベラカーゼ**  
酵素でベタツキ分解

主食・主菜・副菜・汁物・デザート・飲料…  
お粥はもちろん、すべての食事に

お粥ファミリ-プロジェクト

スベラカーゼのレシピ  
スベラカーゼ冷凍/解凍方法  
皆様の疑問にお答えする  
情報をお届けしています!

foodcare JAPAN TEL: 042-700-0555 www.food-care.co.jp

誤嚥リスクの低減

新しい背上げ  
ハイバックサポート機能

ASPINO アスピーノ

医療・介護ベッドメーカー  
株式会社プラッツ  
http://www.platz-ltd.co.jp/

■関東支店 / 関東ショールーム  
〒105-0014 東京都港区芝2-16-9 芝YSビル3F  
TEL.03-5427-8033 FAX.03-5427-8031

■福岡本社 ■北海道 ■宮城 ■東京 ■愛知 ■大阪 ■広島

私たちはシャント発声のプロフェッショナルです

喉頭を摘出された方々のQOL向上のために、シャント発声のリハビリテーションや患者さまを対象にした勉強会を行っています。シャント発声について興味のある言語聴覚士の皆さまには、実際のリハビリテーションの様子や勉強会を公開しておりますので、お気軽にお問合せください。

株式会社アトスメディカルジャパン  
〒104-0033 東京都中央区新川1-3-17 新川三幸ビル2F  
tel 03 4589 2830 / fax 03 5540 0890  
info.jp@atosmedical.com

唾液のチカラで健康と笑顔を  
お口をやさしくケア ペプチサル・シリーズ

Pepti-Sal

Pepti-sal (ペプチサル)とは、  
「Peptide (ペプチド)」+  
「Saliva (唾液)」の造語。

唾液のチカラに着目して開発された  
低刺激性のオーラルケア製品です。  
デリケートなお口をやさしくケアし、  
お口の環境を健康に保ちます。  
要介護の方のケアにもおすすめです。

2014年12月発売

T&K ティーアンドケー株式会社 ☎0120-555-350 www.comfort-tk.co.jp

morinaga

消費者庁許可  
えん下困難者用  
とろみ調整用食品

売上  
No.1

2018年度とろみ調整区分  
(株)シード・プランニング調べ

**つるりんこ**  
Quickly

飲み込みにくいと感じる方が、  
安心しておいしく水分や栄養を摂取するために

0120-52-0050  
受付時間：平日 9:30 ~ 17:00  
(土日祝日・年末年始・5/1 除く)

森永乳業グループ病態栄養部門  
株式会社クリニコ

一般社団法人山梨県言語聴覚士会ニュース

<発行所> 一般社団法人 山梨県言語聴覚士会  
<発行人> 内山 量 史  
<編集> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会 社会局会報編集・HP管理部

石 和 共 立 病 院 原 田 史 佳  
春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 志 摩 美 月  
甲 府 城 南 病 院 秋 山 仁 哉・桂 川 謙 祐  
河 村 有 美  
湯 村 温 泉 病 院 高 木 建 汰  
山梨大学医学部附属病院 赤 池 洋

<事務局> 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法科内  
〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436  
TEL.0553(26)4126 FAX.0553(26)4366

<発行日> 2022年2月1日 第51刊